

幼・保・小  
スムーズなしくみ  
接続の



薮田弘美 (美作大学)  
前川真姫 (環太平洋大学)  
吉澤英里 (星槎道都大学)

# 幼児期教育と小学校教育の円滑な接続

## 【小1プロブレム】

入学したばかりの1年生で、集団行動がとれない、授業中座ってられない、話が聞けないなどの状態が数か月続くことがあります。また、義務教育前の年長から小学校1年生までの2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期として位置づけられ、「架け橋期」と呼ばれています。

## 【幼保小の架け橋プログラム】

子どもに関わる大人が、立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、これらの時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すものです。特に架け橋期においては、地域ごとにカリキュラムを開発することが期待されています。

### Point

架け橋期のカリキュラムは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるように工夫します。

## 【架け橋期のカリキュラム開発の進め方（具体化）】

### フェーズ1：基盤づくり

- ▶ 園・小学校での活動の共有
- ▶ 子どもの交流

### フェーズ2：検討・開発

- ▶ 共通の視点をもとにした内容の検討・開発
- ▶ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解
- ▶ 子どもの交流の推進

### フェーズ3：実施・検証

- ▶ 園・小学校における教育課程編成・指導計画作成、実施・検証
- ▶ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用
- ▶ 子どもの交流の充実

### フェーズ4：改善・発展サイクルの定着

- ▶ 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム
- ▶ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実
- ▶ 持続的・発展的な子どもの交流実施

## 【フェーズ2：カリキュラム検討・開発のポイント】

現在、多くの園や小学校はフェーズ1またはフェーズ2の段階にあります。

カリキュラム検討・開発においては、特に年長児と小学校1年生のカリキュラムを相互に繋げて良くしていくという視点が大切です。そこで、幼児期や小学校低学年にふさわしい教育を大切にしたり、育つものが中断せず、繋がり、発展していくよう配慮することがポイントです。

### Point

カリキュラムを検討する際、まずは幼児期と小学校期の連続する点について、その具体的な様子を10の姿で見とってみましょう。

#### 例1) 年長児と小学1年生の同種の活動に注目する。

3・4・5歳児と1年生の活動の進展を、ステップ1（3歳児）からステップ4（1年生）の4段階で観察し、10の姿を視点として検討します。あるいは、ステップ4について、新たな活動を構想することもできます。

#### 例2) 現在のカリキュラムを充実・発展させる。

10の姿が教科教育の中で、どういった姿の発展に支えられているのか？見方や考え方が視覚化できるように工夫します。

## 子どもたちの「姿」の見方・考え方

### 【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）】

10からなる育ちの視点や目標像のことです。それぞれの項目内容は、これまでの「5領域」のねらいや内容に書かれたことを整理しなおしたものです。

- ① 健康な心と体
- ② 自立心
- ③ 協同性
- ④ 道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤ 社会生活との関わり
- ⑥ 思考力の芽生え
- ⑦ 自然との関わり・生命尊重
- ⑧ 数量や図形、認識や文字などへの関心、感覚
- ⑨ 言葉による伝え合い
- ⑩ 豊かな感性と表現

この「10の姿」は「育てるべき」という到達目標ではありません。子どもや保育の見方・考え方を示したものであり、実際の保育や教育の中身は園ごとに考えることが求められています。

# 10の姿の観察方法

## 【ラーニング・ストーリー】

ラーニング・ストーリーは、ニュージーランドの幼児教育システム（テ・ファリキ）に基づく保育記録の手法です。子ども一人一人の遊びの一場面を切り取り、その様子を成長や学びの過程に注目して記述します。

タイトル： 全員揃ってるよ （Aちゃん）

記入例

### Noticing【気づき】

朝の会での出来事です。Aちゃんは朝の会に対してリラックスしながら、そして集中して参加しており、また先生の問いかけにも表情や言葉で反応していました。先生が「きつねグループさんから呼ぼうかな？」と朝の会に参加している子どもたちに問いかけると、Aちゃんは「そうだよ、だって全員揃ってるもん」と先生に言いました。また、その後、先生が歌いながら他のグループを呼ぶときに、Aちゃんも一緒に歌いながら「みんな歌ってね」と他の子どもたちに伝えていました。先生がグループを呼ぶ順番を考えている時に、Aちゃんは「年長さんは最後にしたらいいんじゃない？」と自分の考えをしっかりと、そして先生に尊敬の態度を見せながら提案していました。

### Recognising【認識】

Aちゃんの朝の会に対する積極的な参加の姿勢、そして自分の意見を発言しているという姿勢から、Aちゃんの「自立心」や「言葉による伝え合い」の姿が育っているのを私は見ることができました。また、私が素敵だなと感じた場面はAちゃんがおそらくすべてのグループの友達を把握しているという点です！この発言から、Aちゃんは園で共に生活し育ちあっていく友達のことをよく理解して、心地よく過ごしているのではないかと思います。「協同性」の姿を見ることができます。さらに、「みんな歌ってね」という発言から、朝の会での先生が期待していることもくみ取っており、集団生活の中での「道徳性・規範意識の芽生え」の姿も見ることができました。Aちゃんが安心の中で力強く育っている姿を見ることができてとても嬉しいです。

### Responding【反応】

Aちゃんがグループや先生の言動に興味や関心を持っており、そして敏感に反応しているように私には見えるので、朝の会の全体、または部分的に担当をお願いしたいと思います。例えば、グループを呼ぶ場面や歌の最初の部分をお願いする等がいいのかも知れないと思っています。



「資質・能力」を乳幼児期から小学校以降へと育てていくものと捉え、それをチェックする窓口が「10の姿」です。この「10の姿」を可視化し共有できれば、小学校への移行も円滑になるでしょう。

# しくみ①：10の姿のアセスメントシート

私たちはラーニング・ストーリーの考え方を土台に、子どもの姿を簡単に記録できる、幼保小共通のアセスメントシートを作成しました。

これは、「10の姿」を共通認識したうえで同じ視点で評価できるシート（子どもの学びをみとり、「10の姿」に分類し記録するためのツール）です。

子どもの氏名：

記入者：

日時：

活動名：

## Noticing【気づき】

興味を持っていること・夢中になっていること・チャレンジしていること・気持ち表現していること・役割を果たしていることを記入します。

## Recognising【認識】

「何」を「どのように」学んでいるか（育っている姿）を記入します。

## 10の姿での見とり

【認識】の内容をもとに、10の姿との関連を記入します。  
10の姿は番号で記入しましょう。例えば「健康な心と体」は①と書きます。

## Responding【反応】

子どもが学びを深めるために「次に必要な経験は何か」に着目し、今後どんな環境を構成するかを記入します。

## 小学校の教科等の単元構成

幼児の活動を10の姿の視点で共有、検討した後、小学校1年生としての活動の構想や教科等での教育に生かせることを考えて記入します。

# しくみ②：アセスメント シートの共有方法

アセスメント シートの作成や共有は紙媒体でも可能です。しかし、紙媒体への記入や共有は時間も労力もかかります。保育や教育でもICT化が進んでおり、DX<sup>※</sup>ツールの活用でこうした問題をクリアすることもできます。

（注）DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、デジタル技術を業務・社会に浸透させて変革することを指します。

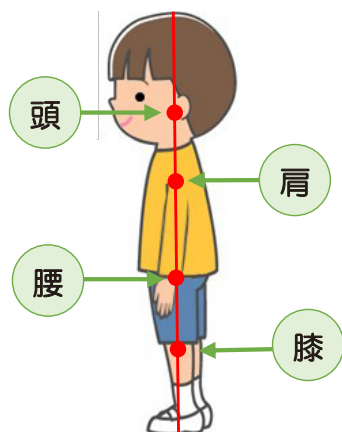


コラム：

## 良い姿勢で心と体を健やかに！

### 【心と体のつながり】

姿勢は、心身の状態や体力とも密接に関係しています。小1プロブレムの要因の一つには、身体的な要素も関与していることから、幼児期に良い姿勢を形成することは、遊びや活動の中で、多様な種類の動きを獲得したり、動きをコントロールできたりする土台に繋がり、幼児期以降の心身の発達、学校生活や日常生活にも好影響を及ぼしうると考えています。



良い姿勢の例

### 【姿勢の見方】

姿勢を評価する視点として、頭の位置（耳朵）、肩の位置（肩峰）、腰の位置（大転子）、膝の位置（膝関節前部）に注目してください（左絵）。理想的な身体の配列では、これらの位置が一直線上に並びます。このような姿勢では、筋・骨・神経への負荷が少ない状態で安定性を保てるため、エネルギー効率が良いとされています。

### 【子どもの足を知ろう】

幼児期の子どもの足は、軟骨で柔らかく変形しやすい特徴があります。例えば、靴の影響で子どもの足の指は曲がりやすくなります。足の指が曲がった状態やねじれた状態、床から浮いている状態は、「浮指び」と呼ばれ（右図）、子どもの足に生じやすい注意症状の一つです。足のゆがみは、体のゆがみや痛みにつながってしまいます。



浮指びの例

注）紺色（軽）→ 青色 → 黄色（重）  
色味が明るくなるほど圧が加わっています。

子どもの健やかな成長のために、子どもの足にも注目してみましょう。



【問い合わせ先】

〒708-8511

岡山県津山市北園町50

美作大学 生活科学部 児童学科

藪田 弘美